

医療法人名南会 第65回定時総会特集号



第613号 (部内資料)
(毎月1回、1日発行)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号
発行責任者
小岩 朋宏
☎052-692-2388

第65回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第65回定時社員総会」を開催いたしますので
ご通知申し上げます。

2025年4月 医療法人名南会
理事長 大森 久紀

●日時：2025年5月31日(土)

■開場・受付開始 午後2時30分

■総会議事 午後3時～5時

※本総会は、今のところコロナ禍前と同じく参加制限なしでの開催を
予定しています。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況
によっては開催内容を変更する場合があります。ご了承ください。

■場所 金山・労働会館
東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



2024年度の各事業所の活動のふりかえり

名南病院

2024年度の名南病院は、「人権・公正・ジェンダー平等をかけた、無差別平等な医療を地域で実践する」「最も困難な人たちを、まず診る・援助する・チームでなんとかする病院」、2つのビジョンと下記6つの重点課題を掲げ、事業活動を進めてきました。

①経営改善

病棟機能の転換、施設基準維持、診療報酬改定対応、病床回転スピードUP、病棟運営会議改善、法人内連携強化

②医療介護活動

高齢者医療のレベルアップ、認知症対応強化、ポリファーマシー対策、ACP、緩和ケアチーム活動強化、リハビリテーションを重視した総合診療、人権と生活支援の視点を持ったプライマリケア、入院時面談を多職種で実施し患者・家族の想いに応える

③多職種協働・チーム活動の充実

レクリエーションを多職種協働で実施、全課長参加の責任者会議の実施、多職種による食事の見守りと食事介助の実施、友の会企画への参加

④地域連携強化・アウトリーチ

法人外連携強化と法人外事業所への訪問・懇談、連携室業務整理、健康まつり実施、訪問行動強化、HPH活動、SDHカンファレンス

⑤外来・在宅・健診

外来運用改善、外来クラーク導入、友の会企画への参加、慢患管理の強化、独居対策強化

⑥働きやすい職場づくり・職員育成

有休取得率向上、時間外労働削減、病棟主治医制からチーム制の導入、院内育成委員会発足、年間教育スケジュール作成、管理者向け学習の実施

1 入院医療：2024年度は入院収益増加を目的とし、地域包括ケア病棟、地域包括医療病棟

への転換を計画しました。地域包括ケア病棟への転換はできましたが、地域包括医療病棟は看護必要度が問題となり、転換することが出来ませんでした。予算上の日当円の乖離を埋めるために、平均稼働151床と目標を上方修正し「いつでも145床」をキーワードとして、入退院コントロールを強化、病床稼働を維持しました。新入院数は171件/月となり(昨年比+24件)と2015年以降、最高の結果となりました。病棟ダイルムでの院内デイを多職種で開催し、夏まつりとクリスマスにレクリエーション企画を行いました。2025年度は入院患者さんの高齢化が進む中、ACPプロジェクトをスタートさせ、地域包括ケア・退院支援・在宅復帰支援体制を強化していきます。

2 外来医療：引き続き発熱外来を月曜日から土曜日まで設置し、コロナやインフルエンザ等、感染症対応を行いました。コロナワクチンも昨年度に引き続き、午後の時間帯の特診で予防接種を行いました。主治医が慢性疾患管理、運動や食事などの生活習慣、服薬状況、健診・予防接種、介護保険の管理・相談まで、病気から生活全般を支える「かかりつけ医診療」を継続して行っています。名南病院への通院に関する困難をサポートするとりくみとして、有償ボランティアによる送迎をスタートし、健診送迎も含め62名の方が利用されています。外来から在宅・往診へシフトされる方への対応も行い、訪問リハビリを継続しました。2025年度も地域のかかりつけ機能の更なる強化を進めていきます。

3 医師の確保と養成：「法人医師確保プロジェクト」は常勤医師採用を目標に面談を強化してきました。2024年度内での常勤医師の採用はありませんでしたが、2025年度に新たに2名の内科常勤医師が着任します。医学生担当1名が着任したことで医学生実習、面談で昨年度を上回りました。引き続き医学対活動を後継者対策の重要な位置づけとして強化していきます。

4 地域組織活動：友の会拡大目標を500人とし、看護師を中心に多職種で入院患者さんへメッセージカードを手渡しするなど、職員の声かけを強化しました。地域訪問行動は1年で6回実施しました。資金募集運動は、待合室椅子への表示、外来ディスプレイの活用を継続しました。4,200万円の年間目標は未達成となりましたが、4,000万円を超える協同基金へのご協力をいただきました。特定健診は2年連続で昨年度を上回る見込みとなっています。「街かどなんでも相談会」(いのちの相談所)を3ヶ月に1度のペースで継続開催し、医師、弁護士、看護師、MSWが参加、地域の方の相談を受けています。



「街かどなんでも相談会」

5 地域連携・無低診：近隣急性期4病院と「下り搬送」協定を締結しました。開業医、施設等に訪問・懇談を継続実施しています。また5つの在宅専門診療所との強化型在宅医療協力医療機関に関する協定を締結しています。2024年度の無料低額診療事業相談件数は293件(昨年比▲97件)、新規承認61件(前年比+7件)となり、厳しい社会状況が反映されています。外国人や比較的若い世代の方の問い合わせ、相談数が増加しています。引き続き地域に目を向けた活動を行います。

6 経営活動：2024年度は入院病床稼働、日当円が予算解離、外来1日患者数も減少し、経常利益は約3,500万の赤字となる見込みです。また看護人員体制が厳しく、看護人材確保、多職種協働推進が最優先です。厳しい診療報酬のなか費用増という状況ですが、2025年度は病棟機能の再編、多職種協働、かかりつけ機能を強化し、経営改善を図っていきます。

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 介護医療院名南ふれあい病院 ヘルパーステーションきずな

2024年度もふれあいグループはリハビリテーション病院・施設としての強みを活かした活動に取り組んできました。

(名南ふれあい病院)

名南ふれあい病院は回復期リハビリテーション病棟を持つ病院として在宅復帰のためのリハビリテーションの提供をおこなってきていますが、10月からは入院料Iを算定する事ができました。これはより質の高いリハビリテーションの提供ができていないこと、看護師を多く配置することで安心して療養できる環境の整備がすすんだことを意味しています。脳卒中を起こしても、ケガなどで骨折しても元の生活に戻れるように、障害を抱えても日常生活に困らないようにリハビリテーションを受けてもらうことができる病院として役割を果たしてきました。

外来通院によるリハビリテーションも実施しています。今後ご希望される患者さんは増加すると思われるので、今年度は体制を充実させ受入をしていきます。

また、外来で手足の筋肉が緊張する痙縮(けいしゅく)でお困りの方にボツリヌス療法を実施し

ているのはご存じですか?脳血管疾患の後遺症で痙縮という症状がありますが、これで日常生活に支障が生じる場合があります。この痙縮の治療法の一つであるボツリヌス療法を当院では実施しています。痙縮でお困りの方は是非当院にご相談ください。

(名南介護老人保健施設かたらいの里)

かたらいの里は在宅復帰・在宅療養支援超強化型老健です。主に在宅療養の支援を中心に活動しています。介護が必要な状態ではあるけれど少しでも自宅で過ごせる時間を持ちたい。そんな願いを叶えられるような支援を続けています。多くの時間を施設で過ごすけどときどき自宅で過ごす、あるいは大半は自宅で過ごすけどときどき施設に入所するなどの生活パターンで自宅で過ごせる時間を少しでも長く持てるように、介護を必要とする方、そのご家族の想いに寄り添ったサービス提供を実施しています。

(介護医療院名南ふれあい病院)

介護医療院では長期療養のニーズに応えられるように取り組んでいます。重介護者で在宅療養が難しく、施設での療養を望まれる方は少なくありません。特にこの地域は高齢者の独居世帯や高齢者夫婦のみの世帯が多く、介護力が十分でないご家庭があるため長期療養のニーズに応えていくことも私たちの重要な役割だと認識しています。昨年度も最期まで安楽に施設で過ごせるようにいろいろな工夫をこらし、療養のお手

伝いをしてきました。ターミナルケアの充実、アドバンスケアプランニングの取組みもその一つです。

(介護サービス提供)

訪問介護、訪問リハ、通所リハの訪問・通所系サービスは在宅で過ごすための日常生活のお手伝いや体の機能維持を目標としたリハビリテーションを実施しています。

このようにふれあいグループは在宅復帰支援、在宅療養支援、地域での日常生活の支援を続けており、地域の皆さんが安心してこの地域で住み続けられるように活動してきました。今年度もリハビリテーション施設として健やかにいきいきとした生活を送られるように身体の機能維持に貢献していきます。

(地域組織活動)

地域の方々の健康づくりの拠点としての役割も担ってきています。ポッチャコートの提供、サロンの場所提供、認知症カフェの開催、豊田・大磯学区での健康教室の開催は引き続きおこないました。今後も地域の皆さんの健康づくりの活動を強めていきます。



「秋の共同組織拡大月間・名南ふれあい病院待合室のようす」

名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・名南ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面にわりながら医療・介護活動を行っています。皆様の「住み慣れたおうちで暮らし続けたい」という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

また名南診療所は「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

(名南診療所)

【訪問診療】

9月から、訪問範囲に瑞穂区全域を追加しました。基本断らない姿勢で積極的に受け入れ、新規件数は平均9.6件/月でした。管理数は増加傾向で、1月には過去最高の202件に到達しました。「依頼は断らない。対応は迅速に」を基本に今後も積極的に新規受入を継続していきます。

【外来】

地域の高齢化とともに訪問診療への切り替えや施設入所、死亡等により患者数が減少傾向でしたが、発熱外来では新規も積極的に受け入れてきました。2024年度より水曜日の外来が休診となりましたが、他の曜日へ分散され、患者数を維持できました。外来件数減少に伴い、健診件数も減少傾向ですが、担当

者を中心に積極的に声かけをおこない、年間目標で掲げていた大腸がん検診200件を達成することができました。

【保健予防】

特定健診目標280件は、264件と目標まであとわずかでした。2025年度こそは目標件数達成できるよう、継続して声かけをおこなっていきます。また、予防接種は肺炎球菌ワクチンの初回接種や、前回接種から5年以上経過した患者さんへ医師から接種呼びかけをおこない、計73名の接種がありました。

【居宅介護支援事業所】

地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、平均132件/月の件数を維持することが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にも対応できるよう2024年も努めていきます。

通所リハビリ、デイサービス庵では、感染対策をしながら「初詣や外部のボランティアによる演奏会、カラオケ」など、利用者の方々が楽しめる企画を実施してきました。

【通所リハビリ】

通所リハビリでは、住み慣れた地域で生活を続けて行くことを目標に、今できる事を少しでも長く維持し、利用者様それぞれに役割も持って頂く事を大切にしています。2025年度も皆様に楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう、ケア・サービス提供をしていきます。

(デイサービス庵)

短時間利用の受入れも積極的に受け入れており、3月末時点で管理数の約25%の方が利用されています。また、2024年度より個別機能訓練を積極的に実施しています。2025年度も閉じこもり防止・日常生活の活性化を目標に、障害のある高齢者にとって楽しい・居心地の良いデイサービスづくりに努力していきます。

(訪問看護ステーションきずな)

看取りや認知症、医療依存度の高い利用者など積極的に受け入れました。退院前カンファレンスに参加し入院から在宅へ切れ目のない支援を行っています。2024年度も新規利用者様の依頼は途切れることなく頂き(新規件数は平均3.5件/月)、訪問看護きずなは地域で頼られる存在となっていると感じています。名南診療所との医療連携が取れるステーションとしての認知度が浸透し、医療依存度の高い療養者様や、住み慣れた地域・ご自宅で安心して暮らしたい、最期を迎えたいという要望にお応えできるように看護体制を維持しながら、地域から選ばれる訪問看護となるよう、今後一層の努力をしていきます。

地域組織活動

名南診療所地域では、名南診療所支部役員の皆さんと協力し、合計7回の訪問行動をおこないました。2023年から継続して、2024年度も全部署からさまざまな職種の職員が訪問行動に参加することができました。診療所の休診日を利用して、毎月第1火曜日にリハビリ職員によるレッツ体操サロン、第2水曜日にハーモニカ演奏会を開催し、毎月参加して下さる地域の方も増え、定着してきました。毎月楽しく活動しています。今後も定例開催をする内容を増やし、地域とのつながりを強めていきます。協同基金は診察時に大森医師から手渡しでチラシを配布し、呼びかけました。また、各事業所・部署での直接の声かけやチラシ配布も行ってきました。多くの方にご協力をいただき、年間の目標協力金額の1000万円を上回ることができました。



レッツ体操サロン

名南診療所はどんな些細な事でも何か困った事があった際に、「そうだ!とりあえず診療所に相談してみよう!」とお願いいただける診療所を目指し2025年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆様と連携・協力しながら、地域の方々の健康と生活を支えていきます。

2024年度 地域組織活動

コロナ禍で顕在化した、あらゆる世代層に共通した生活の困難や困窮に、名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、無差別・平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(友の会)が一体となってすすめてきました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各支部との共同で地域の健康づくりを広げる活動にとりくみました。健診(検診)実施数は、特定健診・大腸がん検診・乳がん検診ともに前年度実績を上回りました。特に大腸がん検診は前年度より大幅に件数が伸びました。名南病院での日曜健診は、100名以上の受診となりました。

② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集運動では、引き続き多くの社員・友の会員の皆さんにご協力をいただき、2年連続で1億円を超える協同基金が寄せられましたが年間目標(1億2千万円)には到達できませんでした。

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同でとりくみました。物価高騰による生活苦が広がる中であっても、“無差別平等の医療・介護～無料低額診療事業など”に懸命に取り組む名南会の姿を訴える中、昨年引き続きマスコミ報道の影響もあり一部で大口協力もありました。同時に、事業所の努力で新規協力職員増やしに意識的に取り組んだこと、小口多数の協力を重視し幅広く訴えた結果、前年を上回る協力件数となりました。

③ 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動を広げてきました。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、無差別平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めてきました。



ほんわか喫茶再開

名南病院では4月から「ほんわか喫茶」を再開しました。中川診療所のサロン(なかしんさん)は活動を継続しています。名南診療所は「レッツ体操サロン」を毎月継続開催しています。名南ふれあい病院では、23年に再開された・ふれあい喫茶、認知症カフェ(カフェひまわり)も活動を継続し内容も充実してきています。ふれあいグループによる豊田学区と大磯学区での健康教室は、専門性を活かして職員も参加しながら継続しています。

地域の中の拠点となるたまり場として、ポッチャサロンは地



第4回ポッチャ大会

域の新たな交流と健康づくりの場となっています。そして、地域のつながりづくり、友の会の仲間増やしにも生かされ、友の会の重要な活動として発展しています。3月には、「友の会第4回ポッチャ大会」が35チーム約107名の参加で開催できました。

8年目を迎える「ほんわか食堂」は、「会食の子ども食堂」とフードパントリーを定期的に開催、自治体・町内会などとも連携と多くのボランティアの協力で、活動を継続させています。



8周年を迎えた子ども食堂

そして今年新たに、夏休み期間の子どもたちの支援として「おにぎりプロジェクト」を始め5回実施しました。「なんでも(いのちの)相談所」は、名南病院の事業所内で、顧問弁護士の協力、ケースワーカー・看護師などの職員と友の会の共同で3ヶ月に1回定期的に行っています。

安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動が今まで以上に求められています。「お助けプロジェクト」は、通院送迎、健診送迎、町内会との共同による買い物支援などを行ってきました。

6月には、友の会「春の行楽(南知多)」を企画、77名が参加しました。友の会全支部で、「健康ウォーキング」「ポッチャサロン」に活発に取り組み、地域との結びつきを強め、会員増やしにもつながっています。



春の友の会行楽(南知多)



名南診療所地域健康ウォーキング

④ 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んでみんなで行動～。憲法改悪を許さないとりくみ、社会保障制度の拡充などの運動に全力で取り組みました。

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組んでいます。

「健康保険証廃止」や「ロシアによるウクライナ侵攻」等への抗議の意味も含め、両病院、中川診療所では定期的にスタンディング行動を継続してきました。



毎月9のつく日に行う、名南ふれあい病院スタンディング行動

24年度は衆議院総選挙、名古屋市長選挙が行なわれたため、「選挙前学習会」「投票呼びかけ」に取り組みました。反核・平和の運動では、今年も平和行進、原水爆禁止世界大会(2名)、3.1ビキニデー集会(3名)へ職員を派遣し、参加報告会を開催しました。また9月26日には、「いのちまもる総行動(東京)」に若手職員4名が参加しました。署名活動では健康保険証廃止ストップの取り組みとして、「現行の保険証を残してください請願署名」について名南病院で外来署名行動を実施したりと重点的に取り組み、1683名の署名を集めました。

5 名南会健康友の会は年間636人の新しい仲間を増やし過去最高の10,017名の会員数となりました。友の会は、会員相互の交流を通じて生きがいや居場所づくりとしての「たまり場」を拠点に活動を広げました。「ポッチャサロン」など仲間の絆・つながりづくりを重視した会員の要求にそった活動をすすめてきた成果です。

今年度友の会員拡大は、名南会長期計画の目標にそって、従来の年間目標数を大きく引き上げる中、ポッチャ・ウォーキング、健康づくり懇談会(学習会)などサロン活動の中で意識的に目標をもって取り



名南会健康友の会 1万人達成!

組み、636名の友の会員を増やし、念願であった1万人を突破し過去最高となりました。50年以上も前に数人で発足した「名南外科友の会」が、地域での絶え間ない継続的な努力と前進により数回の改称を経て「名南会健康友の会・会員数1万人到達」は歴史的成果です。

ここ数年、友の会は支部ごとの活動強化に取り組んでいます。みどり支部は、「たまり場」の活用として、平和学習会や健康まつりを実施しました。天白支部では、他団体と協力したサロンの実施など活動が前進しました。名南病院地域支部では、月間での「外来行動」や「名南健康まつり」のとりくみ、ふれあい病院支部では、「ふれあい喫茶」を毎週開催しています。名南診療所地域では、「健康づくり学習会」、地域訪問を職員・友の会共同で定期的に行っています。中川診療所支部では、「おしゃべりサロン」「体操サロン」を毎週開催しています。



みどり支部友の会まつり

6 全国共同組織活動交流集会(9月・岡山)に過去最高の人数で参加し、全国の活動を学びました。

交流集会には、友の会より17名、職員3名の過去最高20名で参加しました。10月には、発表した5演題を含めた参加報告会を開き、学んだ成果を全体で共有しました。



全国共同組織交流集会(岡山)

医療法人名南会 第64回定時社員総会 概要

2025年3月29日(土) 金山・労働会館東館 午後3時~4時5分
出席社員総数は515名(出席40名、委任状出席475名 61, 2%)。

本定時社員総会は、①翌年度の事業計画及び収支予算の決定、②翌年度中の借入金額の最高限度額の決定、③定款一部変更、を行いました。

冒頭に大森久紀理事長より挨拶を受け、小岩専務理事より議案提案、3名の理事より提案を補足する指定発言の後、議案は全て全員賛成で採択されました。



■総会議案審議(主要議題のみの掲載)

第2号議案

2025年度活動方針及び事業計画承認の件
(2025年度方針、重点課題方針について)
4ページ「医療法人名南会2025年度方針」のとおり

第3号議案

2025年度基本予算承認の件

1. 経常利益 増収、増益により 196,588千円 経常利益率3.5%
2. 事業収益 5,658,574千円 2024年実績見込比104.4%
3. 事業費用 2024年度実績見込比101.7%
4. 設備投資 今期の設備投資予定額は60,000千円
5. 地域資金 純増50,000千円を目標に、募集目標額は2024年度と同額の120,000千円とする。

第4号議案 2025年度借入金最高限度額決定の件

2025年度の借入金最高限度額を70億円とする。

第5号議案 定款一部変更の件

ヘルパーステーションひなたで、新たに定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を実施するため、定款第5条の附帯事業に追加する。

以上。

お知らせ (名南会協同基金にご協力いただいている社員・名南会健康友の会員の方へ)

2025年5月より、諸般の事情により、名南会協同基金残高通知のお届け(郵送)は年1回4月のみとさせていただきます。

中川診療所 住宅型有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた

(中川診療所)

2024年度は診療報酬・介護報酬の改定がそれぞれあり対応に追われる年でした。外来では特定疾患療養管理の対象から糖尿病・高血圧症・脂質異常症が外され生活習慣病管理料へ移行されました。生活習慣病管理料になると業務が増えるため、医師の働き方改革が求められ煩雑な作業が増えました。また、マイナ保険証は今でも現場が混乱する事例が起ります。マイナ保険証で生活保護や福祉医療証を確認するためにはシステム導入のため別途費用がかかるなど医療機関にとっては非常に負担が大きくなっています。外来は日当円の目標を11,000円としていましたが、10,600円と予算よりマイナス400円、昨年よりマイナス200円となりました。発熱外来は断ることなく行っていますので、感染症の流行期には目標の件数を上回る患者さんが来院されました。小児科の発達相談は、小学校や保健所、口コミからの紹介もあることもあり、常に予約が満員で新規枠を設けてもすぐに予約がいっぱいになります。予防接種に関しては、新型コロナウイルスワクチンは料金がかかるようになりましたが、それでも120名の方に接種することができました。带状疱疹・肺炎球菌ワクチンも昨年度に続き積極的にお勧めしていますが、昨年より肺炎球菌ワクチンはマイナス11件、带状疱疹ワクチンはマイナス31件となりました。また、健康

診断については受診率が低く、昨年実績よりも少ない結果となりました。

(通所リハビリテーション)

通所リハビリは、新型コロナウイルス感染症が始まってから利用者が減少してしまい、増やすことがなかなか出来ませんでした。昨年度より一日患者数がマイナス1.7名となり、月の収益予算も大きく乖離する結果となりました。外部事業所への訪問・懇談活動は定期的に行っていましたが、一日体験の予約をしても体調不良でキャンセルになったり、新規契約が取れても入院になり中止になったりとなかなか新しい利用者の確保ができませんでした。

(居宅介護支援事業所)

居宅介護支援事業所も介護報酬改定の影響を受け、収益予算には毎月10万円ほど届きませんでした。管理数は2023度と同じ件数となりました。いきいき支援センターからの依頼や名南病院から退院してくる方の依頼もあり、積極的に受け入れてきましたが、施設入所が決まるなど終了となる方も毎月みえました。2024年度は中川診療所の外来に送迎を使われている方への声かけも行い、介護認定をすることになった方もみえます。中川診療所に居宅介護支援事業所があることを知らなかったという声も聞く中、みなさんに知ってもらおうという事も含めて下半期には介護無料相談を毎週月曜日の午前中に行うこととし、ケアマネが外来の入り口で介護についての相談を誰でも行えるような取り組みを開始しました。

(ヘルパーステーションひなた)

ヘルパーステーションひなたは、毎月収益予算を達成し、昨年度よりも収益を増やす事が出来ました。新規契約の依頼は毎月ありますが、希望の方が増え職人体制が追いつかない状況となっています。法人からの支援も受け対応しました。その影響もあり収益予算は達成出来ても人件費が予算を超過していました。下半期からは有料老人ホームひなたとの経営改善に向け、コンサル会社にアドバイスをもらいながら新たなサービス(定期巡回型サービス)の導入を2025年度上半期にめざしています。

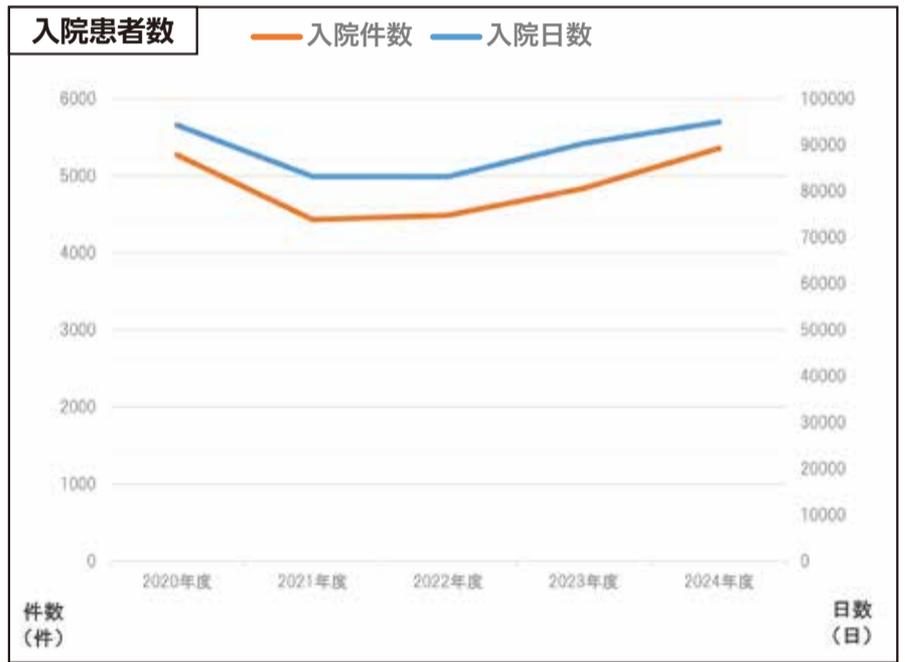
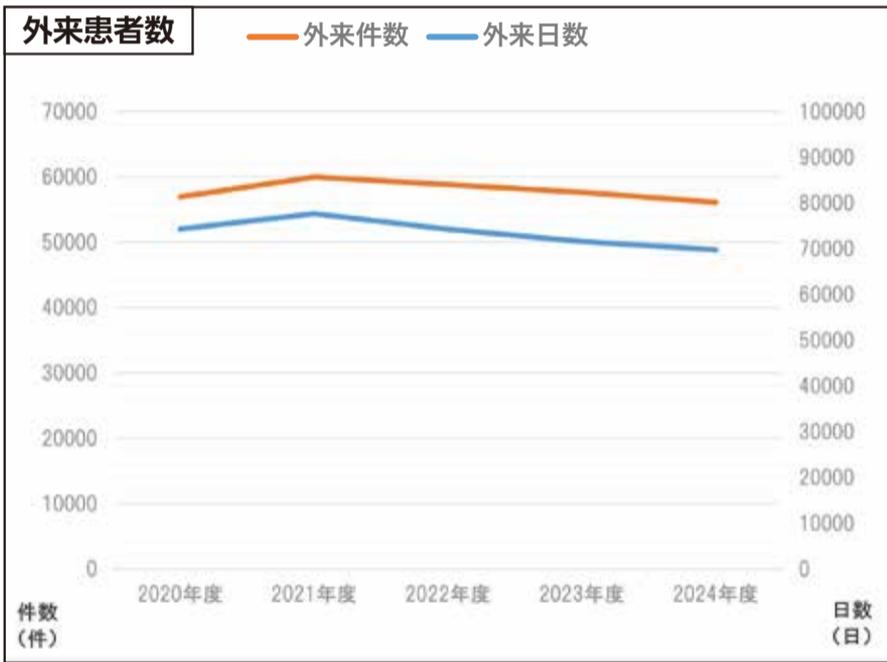
(住宅型有料老人ホームひなた)

住宅型有料老人ホームひなたは、18室満室からスタートしました。途中数名が退去されることとなりましたが、法人内外から相談や依頼があり、長期間空室となることはありませんでした。しかし残念ながら冬に起きた新型コロナウイルス感染症に罹患し退居された方がおり、1月からは1室空室の状態が続いています。

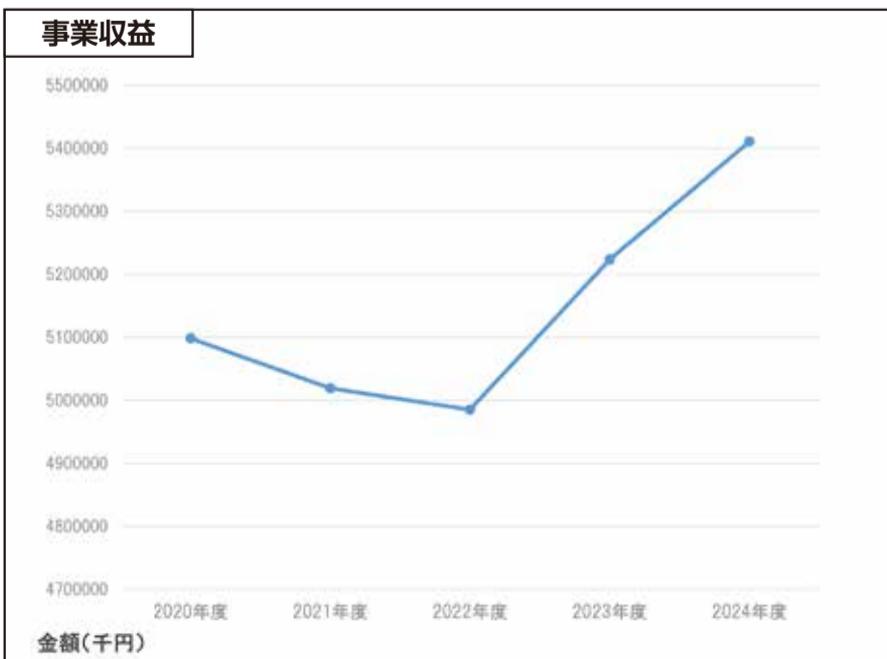
2024年度は中川診療所グループにとって大きな試練・課題がある年となりました。しかし、協同基金は目標を大きく達成することができました。地域みなさんにご協力いただき、パワーをいただくことができました。経営改善には多くの課題がありますが、法人の力を集中して経営困難を乗り越えて行きます。



中川診療所開所40周年・春の健康まつり



法人3事業所及の入院の合計(名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院)



医療法人名南会 2025年度方針

コロナ禍に続く物価高によって、私たち国民のくらしは、かつてなく厳しい状況に直面しています。2024年度上半期の生活保護の申請件数は、前年同期比で2.8%増にのぼり、コロナ禍前の2019年度同期と比べて16.8%の増加となっています。また、2024年の企業の倒産件数は、前年との比較で15%の増加となり、11年ぶりに1万件を超え、このうち99%が中小企業です。こうした社会的な困難が広がる中で、医療法人名南会では、無料低額診療・利用事業を行い、「いのちと健康をまもる砦」としての役割を果たしてきました。地域では、「なんでも相談会」を継続的にを行い、友の会と地域諸団体・企業との共同による子ども食堂やフードパントリーのとりくみも行ってきました。地域の様々なニーズに応え、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めるとともに、友の会や地域の様々な団体とも共同して、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

石破政権は、大軍拡の財源確保のために、社会保障費の削減と世代間の対立をあおっての給付減、全世代での負担増の路線を継続し、「全世代型社会保障改革」に向けた「改革工程」の実行によって、大改悪を進めようとしています。昨年12月には、高額療養費制度の上限額の引き上げ案を現役世代の保険料負担の軽減を理由としてまとめました。介護保険では、10割給付となっているケアマネジメントの有料化をはじめ、利用料の2割負担の範囲や多床室の室料負担の見直しなどが検討課題として示されています。「医療DX（デジタルトランスフォーメーション）」では、昨年12月に多くの国民の声を無視し、従

来の健康保険証の新規発行停止を強行し、現場では不安と混乱が続いています。

ロシアによるウクライナ侵攻は3年が経過し、1万人を超えるいのちが奪われ、ガザでの深刻な人道危機では、すでに4万人を超える市民が犠牲になっています。ことしに入り、それぞれ停戦に向けたあらたな動きもみられていますが、国連憲章と国際法に反する暴力・戦争をストップさせるための世論をいっそう強めていくことが大切です。ことしは被爆・戦後80年の節目の年です。80年間、いのちの対極にある「戦争」をしない国であり続けられたのは、平和憲法の存在と、憲法をまもりいかす市民の運動の力によるものです。大軍拡をストップさせ、憲法をまもりいかし、人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします。自民・公明両党が「少数与党」となったいま、新しい国会では政党間の力関係が大きく変わり、国民の要求を反映させた法案が可決できる条件がうまれています。この夏の参議院選挙に向けて、新しい政治を模索・探求する動きをさらに前進させていきましょう。

2025年度は第9次長期計画の最終年度です。困難な情勢だからこそ、あらゆる活動に「民医連綱領」の立場をつらぬき、断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜くことが2025年度の最重要課題です。医師をはじめとする職員の確保と育成を強化し、第9次長期計画の具体化と実践を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます。



2025年度の重点課題方針

① 「ケアの倫理」を語り合い、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を発展させていきます

SDH（健康の社会的決定要因）の視点を持ち、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めていきます。人口減少・超高齢社会のもとで、「ケアの倫理」を語り合い、高齢者の医療・介護を法人の力を集中して強化します。各事業所の機能をいかし、法人内外との連携を抜本的に強化します。各事業所で新型コロナウイルス感染症の外来診療やワクチン接種、名南病院での入院医療などの役割を果たしていきます。

③ 全職員と共同組織の力を結集して断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜き、第9次長期計画の具体化と第10次長期計画の議論を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます

名南会の事業・経営は地域住民が安心してくらし続けるために存在しています。全職員と共同組織の力を結集して断固として経営困難を乗り越え、事業と経営を守り抜くために、毎月の予算達成を重視し、経営構造の抜本的な改善を図り、名南病院のリニューアルに向けて財務基盤の強化を進めていきます。第9次長期計画の具体化と第10次長期計画の議論を進めていきます。

⑤ 医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と全日本民医連総会方針を確信に、職員育成と職場づくりを進めていきます

医師、看護師、介護職をはじめとした職員の確保と育成を最優先課題として、全職員と共同組織の力を結集して一層強化していきます。職員のいのちと健康をまもることを重視し、働き方の改善、ダイバーシティの推進を進めていきます。全日本民医連の方針学習と「職員育成指針2021年度版」の実践を進めていきます。多様性の尊重・ジェンダー平等や地球環境をまもる課題について、学習をもとに実践を進めていきます。第10次長期計画以降の名南会を展望し、次代の役員・管理者の育成を重視して進めていきます。

② 大軍拡をストップさせ、憲法をまもりいかし、人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします

大軍拡をストップさせ、憲法をまもりいかし、国連憲章・国際法に反する暴力・戦争をストップさせ、平和をまもるための行動を強めていきます。マイナ保険証の強要中止、「現行の健康保険証をのこして」の運動をひろげていきます。高額療養費制度の上限額の引き上げなど、さらなる社会保障削減をストップさせる運動を強めていきます。人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現に向けて、地域へのアウトリーチ、無料低額診療・利用事業をひろげていきます。7月に予定されている参議院選挙に向けて要求実現のとりくみを強めていきます。被爆・戦後80年の節目にあたり、戦争体験を語り継ぐとりくみを進めていきます。

④ 名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます

コロナ禍に続く物価高騰など社会的な困難がひろがる中で、地域でのつながりと結びつきが求められています。名南会と健康友の会との共同のとりくみを一層強めながら、相談会・子ども食堂・フードパントリーなどのとりくみを進めていきます。班会・健康教室・ポッチャをはじめとする楽しくて元気になるヘルスプロモーション（健康づくり）のとりくみを創造的に進めていきます。友の会会員拡大、協同基金募集、健診運動について目標を持って強めていきます。